

高知県教育委員会 会議録

平成24年5月定例委員会

場所：教育委員室

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成24年5月22日(火) 13:30

閉会 平成24年5月22日(火) 16:10

(2) 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	久松 朋水
	委員	北添 紀子
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員(教育長)	中澤 卓史

欠席委員 なし

(3) 高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長	中山 雅需
〃	参事兼小中学校課長	永野 隆史
〃	教育政策課長	岡村 昭一
〃	教職員・福利課長	彼末 一明
〃	学校安全対策課長	沢近 昌彦
〃	幼保支援課長	市川 広幸
〃	高等学校課課長補佐	竹村 謙
〃	高等学校課企画監	森本 民之助
〃	特別支援教育課長	田中 信一
〃	生涯学習課課長補佐	西原 浩二
〃	新図書館整備課長	渡辺 憲弘
〃	文化財課長	彼末 和幸
〃	スポーツ健康教育課長	刈谷 好孝
〃	教育センター所長	濱田 久美子
〃	教育政策課課長補佐	中島 勝海
〃	教育政策課教育企画担当f-7	溝渕 松男(会議録作成)
〃	教育政策課主任指導主事	近森 公夫(会議録作成)

(4) 議事の概要及び教育長等の報告の要旨

【冒頭】

委員長 5月定例委員会を開催する。本日の付議事件1号は、人事議案のため、非公開として取り扱うこととする。

賛成の委員は挙手をお願いする。

各委員 全員挙手

代理 それでは、付議1号は非公開の取扱いとする。

教育長 (提案説明)

【報告第1号 平成24年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析について(高等学校課)】

○高等学校課課長補佐 説明

○質疑

委員	数学の平均点が極端に悪い。22年度まではもう少し良かったが。
事務局	また、図形の正答率が悪いが、問題の傾向が変わったのか。あるいは、学校でやっていることに課題があるのか。
委員	図形は以前から課題がある。受検の制度も変わっており、今回の受検と全く同じ形態というのは、22年度からになる。また問題も全く同じではなく、変わったところもある。それまでは、約半分の生徒が前期試験の自己推薦で合格した後、後期で5教科の学力検査を行っていたこともあり、受検生の層も違っていた。単純に比較することはできない。
事務局	数学だけが、他の科目の平均点より10点くらい低い、作問の段階で欲張り過ぎなのか、生徒側が弱いのか。
委員	他教科と比較して、特に数学が難しいということはない。我々の指導が行き届いていないということが反省点としてある。中学校での単元テストなどからチャレンジテスト問題など、色々な問題を混ぜながら比較的標準的なものになるよう工夫をしている。他の科目と比較して、数学だけが突出して難しい問題を出しているわけではない。
事務局	首都圏から1県、東北から1県というように1県ずつピックアップして成績を比較出来ないものか？高知県だけの結果を見せてもらっても比較がしにくい。
委員	単純な比較はできないが、高知県の正答率では、妥当な一般的な標準偏差(山)になっている。
事務局	他県は学力検査を50分でやっているところが主流で、実際、難易で言えば、高知県より量も多く難しい問題も多い。ただ、中学校の取組により、徐々に改善傾向にあり、無答(手を付けていない)の割合が減っている。もっと正答率につながることを期待している。
委員	他教科においても、他県の方が難しいのか。
事務局	全部が全部ではないが、難しいと思われる。

教育長	全国で比較するなら、学力テストが正確である。国語は全国レベルにあるが、数学は劣っていることが学テでは分かる。数学は0点が34人いる等、基礎的な問題ができていないことが分かる。点数の高い子も少ないので、難しい問題も含まれていることが分かる
事務局	数学なので、平易な問題だけでなく、満点がないことから難しい歯応えのある問題も含まれていることが分かる。
教育長	数学には、下位層の得点者が多くいる。弱いから問題を易しくするというのではなく、我々が中学生に求めるレベルだということのメッセージとして発する意味がある。
委員長	数学はレベル的には低いとは思わない。ただし、40分でこの問題を解くとすれば力が無いと解けない。例えば数学だけ45分にする等の検討が必要で、そのあたりが課題である。22年以前の受験では、前期で上位者が抜けるという傾向があったようだ。それからすると、同じ問題ならば、平均点は上がらなければならない。それからすれば、レベルが上がっているのではないか。 四国内であれば情報交換もできるだろうから、他県を見ながら、ということも必要である。
教育長 事務局	指導のポイントを書いているが、これを中学校の先生は見ているか。各教育事務所の指導主事に説明し、指導主事から各中学校の先生に説明してもらっている。中学校の先生も意識してくれていると思われる。
委員長	入学者数で定員内不合格を多く出している学校がある。その判断が適切であるか、学校と話し合いをして、来年に向けて対応をしていくべき。地域における使命もあると思われる。最終的に定員内不合格は44名に減ったと言うが、前期に大量に出すのは、受験生にとってもショックが大きいので、検討してもらいたい。
事務局	了解した。
委員	7Pから9Pのヒストグラムを合格と不合格に分けてあらわすのは、問題があるのか。合格者・不合格者のそれぞれの分布に分けて見れば、どういう生徒が入って来ているのかが分かる。
事務局 教育長 委員	各高校では把握しており、データもあるので作ることはできる。学校によりレベルがある。それを集めて意味があると思えない。実際に、数学では低い所に山ができています。これだけ低い子が県立高校に入って勉強しているということが分かる。
教育長 事務局	0点でも入って来ているか。 0点でも入っている。全日制から定時制までいるので、そういう点で入って来ている生徒もいる。
委員長 教育長 委員	無答は減っており、学力対策はできていると言えるのでは。 学力テストも無答が減少傾向にある。 土佐市から西の高校が定員割れになっているが、西の方から高知市内に 来ているのか。

事務局	例えば、高岡高校でいうと、高知市内にも入りやすい地の利もあるし、地域の子どもの数も減っていると両方の要因がある。高校再編振興にも関わる内容になるが、子どもの数が地域によって減る割合が高いところもあり、一概には言えない。
委員	80人の定員で44人が入学した場合、44人の1クラスになるのか。
事務局	40人1クラスなので2クラスになる。80人の定員に40人しか来なかったら1クラスになる。
委員	先生の実数は、その前に決められているのか。
事務局	そのとおり。2クラス分で行くようになる。しかし80人の定員のところに30人しか集まらなかった場合には、1クラスになり、先生の数にも影響が出てくる。
委員長	先生の実数は、あらかじめ定員によって決められている。5月1日の学校基本調査で確認して、生徒数によって正式に先生の実数も固まる。以前は、4月以降に先生を揺り動かしたこともあった。
事務局	今は定数管理ができています。
教育長	加配の定数をいただいたり、県単で配置をしたり、そのあたりはそういうことをしなくてもかなり手厚くなっている。
委員長	前提に学力ということがあるが、不合格者を作らないようにしなければならない。不合格者のデータを見ても高知県の率は高い。県によっては、志願先の変更をしたりしている。
教育長	公立の人気の高い県は切っても私学へ行くが、高知は反対なのでそれが難しい。学校現場では、できるだけ良い生徒が欲しいと考えているので、定員内であっても不合格者を出すことになる。 実際には、発表前には高等学校課とも協議をしながら、できるだけ合格させるような方向で検討をしている。
委員長	実際、入学してもついていけないということを想定してのことだろうが、そこを何とか結果を出さないといけない。
教育長	学校によっては、成績が悪くても他人に迷惑をかけない生徒や不登校の生徒を合格させ、学び直しを手厚く支援している高校もある。 進学率は、どうなるのか。
事務局	定員が減る中で、昨年度と同じ合格者数になっているので、進学率は上がると思われる。
委員長	学力検査は中学校への影響も大きいので、よく検討してほしい。
事務局	教育事務所と連携して、中学校の先生方にも発信していきたい。

【報告第2号 南海地震対策について（学校安全対策課）】

○学校安全対策課長 説明

○質疑

教育長	保育所・幼稚園はどうなっているのか。
事務局	25日までの期限で回答をもらうことになっている。
委員長	今のところ、学校関係では逃げる場所をおさえて訓練をしたりしているが、今回のデータによって、避難場所をもう一段上げるということか。
教育長	学校は以前に、独自に色々と考え見直しをしているので、その必要はない。再見直しは、比較的少なく済むと考えている。 例えば、清水高校は、道路を渡って遠くへ逃げることを考えていたが、県教委の予算で裏山に避難路を作っているので、そこに1つできて、もう1つは、道路工事に併せて避難路も作るという計画もあり、選択肢が2つできたりしているところもある。市町村の避難場所の変更や避難道の整備によって変わる可能性がある。
委員長	高知市内は、今までであれば屋上に逃げればいとされていたが、それではだめということになるのか。
教育長	市内は0から3m位までなので、全て校舎の屋上で対応できる。心配なのは、安芸高校、海洋高校、須崎高校、宿毛高校、清水高校。ただ清水高校のように近くに山があるところはいいが、無い安芸高校等は、最大10mの津波が来たときの避難方法を十分に考えておかなければならない。
委員長	海洋高校は近くに山があるのでは。
教育長	山はあるが、そこへ行くまでに川がある。昔津波がその川を遡ったようで、その川を渡るにはリスクがあるので、今は校舎の上に逃げるようにしている。ただ、今回のデータではかなり高いので、安全に山へ逃げる方法がとれるのであれば土佐市とも検討しながらそのようにする。
委員長	南高校はどうか。
教育長	2～3mの浸水なので心配ない。浦戸湾の入り口が狭いので、入ってきた水が回りに広がるので、浸水があまり高くないのだろう。南高校の浸水による命の安全は大丈夫。
委員長	具体的に避難ビルへ逃げる等、高知市との協議はこれからか。
教育長	高知市はあまり進んでいないようだが、県からすれば、県立高校が避難ビルになると考えている。これを見れば命は守れると考えている。
委員長	雨や夜には、山へ逃げるには辛いことが予想される。
教育長	高校生には、弱者を助けるということを含めて地域で総合的に考える必要がある。 とにかく命を守らなければならない。
委員長	県立学校は、市町村にあることから、市町村との調整も必要になるのでは。
教育長	市町村が県立高校を避難ビルに指定するとすれば、県立高校は市町村の

	決めたことに協力するようお願いしている。 次は避難場所として備蓄をどれだけするか等を考えなければならない。 学校であれば、生徒だけでなく地域住民の命を守るという役割を持っている。
委員長 教育長	図書館ができれば、図書館ということになるのでは。 そうなるだろう。3,000人は収容できる。お城が最も広いが、石垣が崩れる心配もある。
委員	県立高校は27年に耐震化率が100%になるとのことだったが、市町村でそうならないのはなぜか。
教育長	統廃合を考えていて、それが決まらなると進まない。あと財政上のこともある。働きかけて100%にしたい。
委員長 事務局	保育所・幼稚園は公立全部なのか。 そのとおり。
教育長	それらは建物の規模が小さく平屋が多いことから耐震化も進みやすい。 津波時には、逃げなければならない。
委員長	これからになると思うが、よろしく願います。

【付議第1号 教職員の人事議案（小中学校課）】

○小中学校課長、教育センター教職研修部長 説明

○質疑

	【非公開議案】
--	---------

(5) 議決事項

付議第1号

原案のとおり議決